

■The National Archives 収蔵の軍事諜報文書コレクション

英国陸海空軍の軍事諜報ファイル

Military Intelligence Files: Land, Sea & Air, 1938-1974

第二次世界大戦と冷戦期における軍事情報機関の監視活動と対抗措置



本コレクションは、世界大戦を包括的に考察するためのシリーズとして企画され、第二次世界大戦および冷戦期における英国軍事情報機関の活動と姿勢を明らかにしています。収録される資料の大部分は、陸軍、王立海軍、王立空軍が作成した週次、月次、四半期ごとの文書・情報要約です。さらに、British Commanders'-in-Chief Mission to the Soviet Forces in Germany (BRIXMIS) の記録が含まれており、ワルシャワ条約機構加盟国の内政と戦略的判断について興味深い洞察を提供しています。

英国国立公文書館の紙媒体資料からスキャンされた本コレクションには、海軍省 (ADM 223)、空軍省 (AIR 22 / AIR 40)、外務省 (FO 371)、陸軍省 (WO 208) の文書が大きな比重を占めています。また、このコレクションには英国国立公文書館の近代コレクション部門長である Stephen Twigge 博士による解説文が付属しています。

陸海空軍の各情報部門は、1964年に国防省内の統合防衛情報部 (Defence Intelligence Staff) として統合されるまで、それぞれが独立して活動していました。本コレクションが対象とする期間の中で、情報収集活動は進化を遂げ、新技術の導入により、より詳細で、おそらくより正確なレポートや評価が可能となりました。報告書の種類も変化し、軍事および国際政治の状況に応じて作成される内容の量が決定されていました。例えば、第二次世界大戦中は、軍の全部門が週次の機密情報要約を作成していましたが、戦後はこれが王立空軍のみとなりました。

この変化は内容の性質にも反映されていました。当然のことながら、1939年から1945年の期間における軍事情報報告は、戦域レベルの戦略と戦術に焦点を当てていました。一方、冷戦期の報告は、ソビエト連邦とワルシャワ条約機構加盟国の内政により多くの注意を払っていました。BRIXMISの記録は、特にこうした事項に関心を向けていました。BRIXMISが外務省に送った報告は、ロシア軍の戦力や意図 (部隊の移動や防諜活動を含む) を調査した軍の要約を補完し、その背景を説明する役割を果たしました。

大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
Archive 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの年間管理費 (Annual Hosting Fee) は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

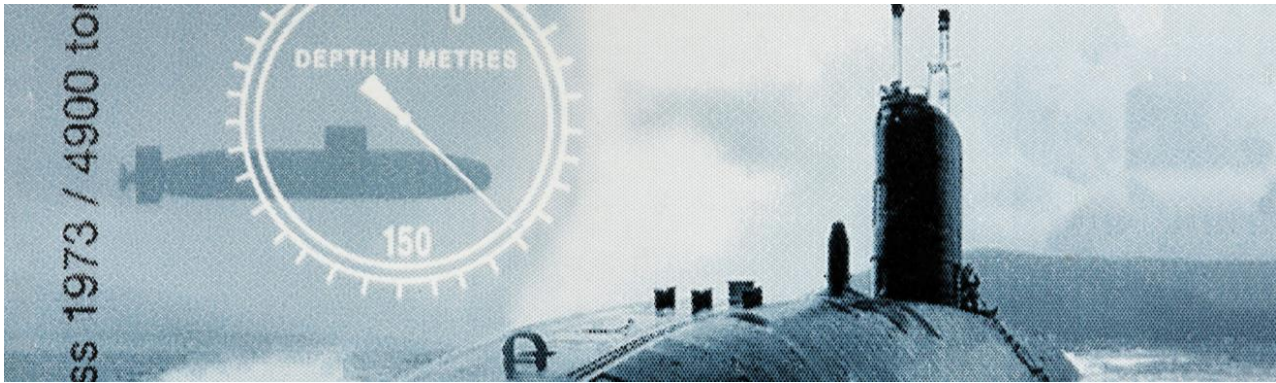
〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp





■ 12 のパートに整理されたアーカイブ

1. Weekly Army Intelligence Summaries, 1939-1945

このパートには、第二次世界大戦中に陸軍省と英国陸軍が作成した週次情報要約が収録されています。参謀本部によって承認され、師団長以上の階級を対象として作成されたこの要約の目的は：(a) 枢軸国および枢軸国占領地の状況に関する情報の提供、(b) 内部資源と士気に関する率直な評価の提供、(c) 連合国および非同盟国の立場の伝達でした。

この要約には、政治、経済、外交に関する議論とともに、師団レベルでの枢軸軍の配置と移動の見積もりが含まれています。すべての主要な戦域について触れられており、英国植民地の防衛と植民地軍の使用に関する内容が大きな比重を占めています。極東に関する解説の多くは日中戦争に焦点を当てています。



WO 208 (War Office: Directorate of Military Operations and Intelligence, and Directorate of Military Intelligence; Ministry of Defence, Defence Intelligence Staff)

2. Monthly Army Intelligence Summaries, 1946-1954

本パートは、冷戦初期に陸軍省と英国陸軍が作成した月次情報報告が収録されています。参謀本部によって承認され、師団長以上の階級を対象として作成されたこの要約の目的は、世界各地の政治、経済、外交状況に関する情報を提供することでした。各要約は 4 つのセクション（(1) 欧州、(2) 中東、(3) 極東、(4) 米州）に分かれており、最後のページには関連する写真、図表、地図が含まれています。

内容の大半は、ソビエト連邦や中華人民共和国などの敵対勢力の意図、能力、内部の動きの分析に充てられています。また、新たに独立した植民地国家（特にエジプトとミャンマー）や、既存の英国植民地についても大きく取り上げられています。連合国および非同盟国に関しては、現地の共産主義運動の勢力分析に多大な労力が費やされています。



WO 208 (War Office: Directorate of Military Operations and Intelligence, and Directorate of Military Intelligence; Ministry of Defence, Defence Intelligence Staff)

3. Quarterly Army Intelligence Summaries, 1955–1962

本パートには、1955年から1962年の期間に陸軍省と英国陸軍が作成した四半期情報要約が収録されています。参謀本部によって承認され、師団長以上の階級を対象として作成されたこの要約の目的は、世界各地の政治、経済、外交状況に関する情報を提供することでした。各要約は製本された形で発行され、4つのセクション（(1)総論、(2)ソ連を含むヨーロッパ、(3)中東および北アフリカ、(4)東南アジアおよび極東）に分かれており、関連する写真、図表、地図が含まれています。

四半期要約の主題は月次要約と類似しており、ソビエト連邦などの敵対勢力の意図、能力、内部の動きは、当然ながら詳細に分析されています。脱植民地国家の果たす役割や、友好国における共産主義運動の影響力も大きな関心事となっています。いわゆる「特別記事」では、軍事アタッシュ、亡命者、専門家からの寄稿が含まれており、目新しくはないかもしれませんが、研究者にとって興味深い補遺となっています。



WO 208 (War Office: Directorate of Military Operations and Intelligence, and Directorate of Military Intelligence; Ministry of Defence, Defence Intelligence Staff)

4. Monthly Naval Intelligence Summaries, 1938–1939

本パートには、第二次世界大戦直前の時期に海軍参謀部と海軍省のために海軍情報部が作成した月次情報要約が収録されています。これらの要約の目的は、関係者に政治、外交、軍事状況を把握させることでした。機密（後に極秘）扱いでしたが、すべての指揮官が読むことを意図しており、必要に応じて配布されました。

各要約は4つのセクションに分かれています：第1セクションは最近の出来事の概要を含む国際情勢を扱い、第2セクションは将校にとって関心があると思われる短い報告を含み、第3セクションは日刊新聞を入手できない将校に情報を提供する目的で報道からの抜粋で構成され、最後のセクションは最近出版された海軍および軍事文献の評論を特集しています。



要約の内容は、ナチス・ドイツが及ぼす脅威に焦点を当てており、それは軍艦や兵器の領域だけでなく、例えばユダヤ人の窮状なども報告されています。さらに、太平洋における日本の野心についても多くの注目が払われています。

ADM 223 (Admiralty: Naval Intelligence Division and Operational Intelligence Centre: Intelligence Reports and Papers)

5. Weekly Naval Intelligence Summaries, 1940–1945

本パートには、第二次世界大戦中に海軍参謀部と海軍省のために海軍情報部が作成した週次情報要約が収録されています。これらの要約の目的は、関係者に政治、外交、軍事状況を把握させることでした。極秘扱いでしたが、すべての将校と関係政府職員が読むことを意図していました。

各要約は5つのセクションに分かれています：第1セクションは海戦を扱い、第2セクションは将校にとって関心があると思われる幅広い主題に関する記事を含み、第3セクションは国別のアルファベット順に整理された政治情報報告で構成され、第4セクションは主要部隊の配置に焦点を当てた海軍情報報告で構成され、第5セクションは商船と補給路に焦点を当てています。



ADM 223 (Admiralty: Naval Intelligence Division and Operational Intelligence Centre: Intelligence Reports and Papers)

6. Monthly Naval Intelligence Summaries, 1946–1954

本パートには、冷戦初期に海軍参謀部と海軍省のために海軍情報部が作成した月次情報要約が収録されています。これらの要約の目的は、関係者に政治、外交、軍事状況を把握させることでした。極秘扱いでしたが、すべての指揮官が読むことを意図しており、必要に応じて配布されました。

各要約は4つのセクションに分かれています:第1セクションは通常、国際情勢に関する簡潔な編集者のコメントで、第2セクションは国別のアルファベット順に整理された海軍情報報告で構成され、第3セクションは将校にとって関心があると思われる主題に関する記事を含み、第4セクションは再び国別のアルファベット順に整理された政治情報報告で構成されています。

内容の多くはソビエト連邦とその世界的影響力に関するものです。朝鮮戦争やベルリン封鎖などの出来事が詳細に分析されており、核軍拡競争も大きく取り上げられています。

ADM 223 (Admiralty: Naval Intelligence Division and Operational Intelligence Centre: Intelligence Reports and Papers)



7. Quarterly Naval Intelligence Summaries, 1954–1965

本パートには、1954年から1965年の期間に海軍参謀部と海軍省のために海軍情報部が作成した四半期情報要約が収録されています。これらの要約の目的は、関係者に政治、外交、軍事状況を把握させることでした。極秘扱いでしたが、すべての将校と関係政府職員が読むことを意図していました。

各要約は4つのセクションに分かれています:第1セクションは簡潔な編集者のコメントを提供し、第2セクションは海軍情報報告で構成され、第3セクションは政治情報報告で構成され、第4セクションは将校にとって関心があると思われる幅広い主題に関する記事を含んでいます。

内容の多くはソビエトの脅威に焦点を当てています。また、潜水艦が確実な運搬プラットフォームとして重要視されていたため、核の力のバランスについても大きな注目が払われています。

ADM 223 (Admiralty: Naval Intelligence Division and Operational Intelligence Centre: Intelligence Reports and Papers)



8. Weekly Air Force Intelligence Summaries, 1939–1945

本パートには、第二次世界大戦中に空軍省のために王立空軍の航空情報部が作成した週次情報要約が収録されています。これらの要約は、将校と政府職員に当時の政治的・軍事的状況を伝えるために役立てられました。

各要約には、主要な戦域の概観、枢軸国の航空作戦に関する詳細、および新型航空機の技術調査から敵部隊の心理に至るまで、航空兵にとって関心があると思われる幅広い主題を扱う記事が含まれています。連合国の爆撃の結果も分析されており、特に被害状況の報告、民間人の士気、航空および民間防衛インフラの性能に焦点が当てられています。

Air 22 (Air Ministry: Periodical Returns, Intelligence Summaries and Bulletins)



9. Secret Air Force Intelligence Summaries, 1946-1960

本パートには、冷戦初期に空軍省のために王立空軍の航空情報部が作成した月次情報要約が収録されています。これらの要約は、将校、資格を持つ航空乗務員、および政府職員に当時の政治的・軍事的状況を伝えるために役立てられました。

要約は主にソビエト空軍の能力、作戦、防衛に焦点を当てています。軍事航空産業の技術発展が扱われており、核戦略における航空機の役割についても触れられています。陸軍や王立海軍の同様の出版物ほど目立ちはしませんが、要約には「外交問題」という見出しの下で外交情勢の概観も含まれています。

Air 22 (Air Ministry: Periodical Returns, Intelligence Summaries and Bulletins)



10. Monthly Far East Air Force Intelligence Summaries, 1951-1960

極東空軍 (FEAF) は、東南アジアにおけるすべての王立空軍 (RAF) の資産と作戦を監督するために 1943 年に設立されました。本パートには、1951 年から 1960 年の期間に空軍省のために FEAF が作成した月次情報要約が含まれています。

要約は 3 つのセクションに分かれています: 第 1 セクションは「情報と現行作戦」を扱い、第 2 セクションは様々な話題に関する「特別記事」で構成され、第 3 セクションは「地域の政治ダイジェスト」となっています。中華人民共和国とソビエト連邦の両国が分析官から大きな注目を集めています。朝鮮での航空作戦も初期の報告の重要な部分を占めており、マラヤ緊急事態も全体を通して取り上げられています。

Air 40 (Air Ministry: Periodical Returns, Intelligence Summaries and Bulletins)



11. British Commanders'-in-Chief Mission to the Soviet Forces in Germany (BRIXMIS) : Foreign Office papers, 1946-1966

在独ソ連軍に対する英国軍司令官代表团(BRIXMIS)は、1946年に設立された連絡イニシアチブでした。表向きは外交的な取り組みでしたが、BRIXMISは鉄のカーテンの向こう側での情報収集に理想的な機会を提供し、そのように活用されました。本パートには、外務省への派遣報告が含まれています。これらの報告は主に政治、外交、経済問題に関するものです。



12. British Commanders'-in-Chief Mission to the Soviet Forces in Germany (BRIXMIS) : military intelligence, 1949-1974

在独ソ連軍に対する英国軍司令官代表团(BRIXMIS)は、1946年に設立された連絡イニシアチブでした。表向きは外交的な取り組みでしたが、BRIXMISは鉄のカーテンの向こう側での情報収集に理想的な機会を提供し、そのように活用されました。本パートには、ソビエト軍に関する派遣報告と報告書が含まれています。その多くは赤軍の移動や空軍基地内外での活動に関する情報を含んでおり、航空機や兵器の詳細な分析も行われています。また、ワルシャワ条約機構加盟国へのおよび同機構からの亡命者を扱うものも含まれる人事ファイルも同封されています。



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp